

文 化 服 装 学 院
自己点検・評価
内部評価委員による報告書

平成 25 年 11 月 25 日

1 教育理念、目的、人材育成像

●学校の教育理念、目的、人材育成像

- ・世界レベルで活躍できる人材育成として適切な教育理念である。
- ・デジタル化に対応する教育が不足している懸念があるため、カリキュラムとしての必要性を感じる。
- ・文化服装学院と他校との違い、特徴を打ち出した方がなおよい。

●各課程および学科の教育理念、目的、人材育成像

・服飾専門課程の教育理念、目的、人材育成像

- ・人材育成像に向けて基礎から応用まで総合的に学習する仕組みが整っている。
- ・育成像が見えにくい学科もあるため、学科ごとにより明確にする必要がある。
- ・ファッション工科課程との差別化を明確にする必要がある。

・ファッション工科専門課程の教育理念・目的・人材育成像

- ・ファッション産業におけるアパレル業界の仕組みの中で生産から流通に至るまでの分野を細分化しスペシャリストの養成を行っている。
- ・産業界と密接な関係を持って産学連携に力を入れていることが評価できる。
- ・人材育成像がぼやけている学科や、教育理念が絞り込まれていない学科に関してはより明確にする必要がある。
- ・きめ細やかなカリキュラムが設定されていることがうかがえる。
- ・アパレル産業界と密接な関係を築き、産学連携に力を入れていることが評価できる。
- ・服飾専門課程との差別化を明確にする必要がある。
- ・学科ごとの違いをよりはっきりと打ち出していくことが今後の課題である。
- ・スポーツアパレルやデジタル化を取り入れた教育がなされる時期になっているのではないか。

・ファッション流通専門課程の教育理念、目的、人材育成像

- ・ファッションビジネスにおける川下、最も消費者に近い位置での活動に対して、常に顧客（人）を満足させるための方策を考え、職域ごとに明確な目標を設定し、それを達成するために努力している。
- ・一部、人材育成像がわかりづらい表記があった。
- ・一部、学科の特徴が明確に示されていない部分があった。

・ファッション工芸専門課程の教育理念、目的、人材育成像

- ・専門知識や技術が必要とされる分野であるが、業界の高い要求に応える体制ができている。
- ・教育理念や人材育成像が明確に示されていない部分があった。
- ・関連学科の教育理念、目的、人材育成像
 - ・座学での専門知識の学習も充実しており、技術教育だけではなく、知識の面でもサポートしている。
 - ・教育理念がわかりづらい科目があった。
- ・Ⅱ部服飾専門課程の教育理念・目的・人材育成像
 - ・社会人が多く学ぶこの課程は時間効率やカリキュラムについてバランスよく組み立てられており、スキルアップを目指す学生にとっては有効的である。
 - ・教育理念、人材育成像がやや不明確であると感じた。

2 学校運営

●法人組織・学校組織

- ・本学院の目的を達成するための学校運営体制は法人組織、学校組織ともに必要な機関が設置され、適切に機能している。
- ・意思決定機関の各会議や委員会についてもそれぞれ適切な教職員が出席し、確認、審議、情報交換が行われている。
- ・諸規程については早急な整備が今後の課題である。
- ・ハラスメントの状況については、学生からの訴えという形ではなく、聞き取り（アンケートなど）も必要ではないか。
- ・ドロップアウトに関する検討機関の明確化が今後の課題である。

3 教育活動

●文化服装学院のカリキュラム編成方針

- ・専門学校は常に業界を意識したカリキュラム編成が必要である。
- ・毎年、学科ごとに目標を定め、学生の質の変化と産業界の変化に対応してカリキュラム編成を行っていることが評価できる。

●各課程のカリキュラム編成

- ・服飾専門課程のカリキュラム編成方針、授業内容、実施状況
 - ・必要に応じた専門性の高いカリキュラム編成を行っている。

- ・ 出口対策と授業内容の特徴が見えにくい。
 - ・ より具体策な改善点の提案が今後の課題である。
-
- ・ ファッション工科専門課程のカリキュラム編成方針、授業内容、実施状況
 - ・ 在学生や卒業生の意見を参考にし、次年度のカリキュラム編成を検討している点が評価できる。
 - ・ 多くの学科で学生の能力低下、レベルの低下、意欲の低下が課題となっているが、より具体策な改善点の提案が今後の課題である。
-
- ・ ファッション流通専門課程のカリキュラム編成方針、授業内容、実施状況
 - ・ 平成 24 年度から 1 年次を一元化し、2 年次で専門の 5 コースに分かれるという新カリキュラムがスタートした。この結果を分析、検討し、よりよいカリキュラムの構築を期待する。
 - ・ 一部改善点が明確でないところがあった。
-
- ・ ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成方針、授業内容、実施状況
 - ・ 就職後に役立つ実践的な能力を育成するための多岐にわたるカリキュラム構成がなされている。
 - ・ 学生のレベル低下が問題としているところがあるが、その考え方は適切とは言えない。
 - ・ より具体策な改善点の提案が今後の課題である。
-
- ・ II 部服装科のカリキュラム編成方針、授業内容、実施状況
 - ・ 1 年次から 3 年次まで習熟度に応じて順序だててバランスの良いカリキュラム編成となっている。
 - ・ 科目の必要性和実務での関係性を伝えていくという指摘は重要で賛同できる。
 - ・ この学科で学ぶことで、何がどこまで学習できるのかをより分かりやすくすることが今後の課題である。
-
- 教育の方法
 - ・ シラバスに類するものとして、科目概要が作成されているが、科目概要は学生には非公開としているため、学生に公開できるシラバスの作成を望む。
 - ・ 学生の意見、考え方を参考にする必要もある。
-
- 授業研究（指導案）
 - ・ 服飾専門課程の授業研究

- ・明確な目標を設定し、それに向けてそれぞれの科で専門分野の特徴を把握し、その達成のために日々研究検討している。
- ・ファッション工科専門課程の授業研究
 - ・今回の自己点検では現状の問題点が見えにくい部分があった。
 - ・学生のレベル差だけではなく、効果的なカリキュラム内容の提示が欲しい。
 - ・改善案に具体性が見られないところがある。
 - ・クラス内格差は少人数クラスにすれば解消されるものではない。
- ・ファッション流通専門課程の授業研究
 - ・課程内のそれぞれの専門分野で産業界が何を求めているのかをリサーチし、それに対応すべく日々研究、改善に取り組んでいる。
 - ・授業を展開するにあたり、どのような工夫がなされているか、具体的な説明がほしいところがあった。
 - ・課題や改善点が見えづらい学科がある。
- ・ファッション工芸専門課程の授業研究
 - ・それぞれの科で独創性、創造性の重要性を理解し、取り組んでいる。
- ・Ⅱ部服装科の授業研究
 - ・基礎から応用までの内容、プロセスを修得させるよう、努力されているが、実際の授業時間数は決して多くないことを明確に伝えていく必要がある。
- 教育の評価・成績評価
 - ・明確な成績評価基準が整っており、問題はない。
 - ・評価方法の統一が提案されているが、作品課題が多い教科は点数評価を平均し、成績を出す今の方法の方がよいと思われる。
 - ・中間評価があることで2年制の課程では、1年次の成績が芳しくなくても、2年次前期に頑張っている場合は、その結果が示され、就職活動の際に評価されるので、今の方式が望ましい。
- 教育体制・学校行事
 - ・クラス担任制は本学院の教育プログラム遂行には非常に有益な制度であり、継続していくことは望ましい。
 - ・学校行事の増加により、各担任の負担が多くなっていることを改善していかななくてはならない。

●コラボレーション

- ・専門学校の特色である産業界との密接な連携は重要である。
- ・お互いの到達目標を理解する必要がある。
- ・学生にとっても実社会でのプロセスを学べ、授業と連動し取り組めるものがより望ましい。
- ・授業外で取り組むものは学業の妨げとならない配慮が必要である。

●資格試験

- ・資格の取得は修得した知識、技術を客観的に評価したものであり、個人のスキルを示すことのできる重要な指標であることを、学生により理解させていく努力が必要である。

●教員の組織

- ・専任教員と非常勤講師の人数の割合
- ・教員の担当教科、在職年数、教育研究業績
- ・採用方法と人事考査
- ・教員の資質向上
 - ・授業評価、カリキュラム評価の実施が今後の課題である。
 - ・教員の専門性を重視した採用活動が望まれる。
 - ・教員の資質向上については、現状以上の有益な研修の構築を望む。
 - ・教員の資質向上のため、各自の研鑽ならびに学校主催による研修を行っているが、文化服装学院の特色である服飾造形に関する知識、技術については流通系の教員であつてもしっかりと持つべきであり、その向上のために研修会をより多く開催していくことが必要である。

●職員の組織

- ・事務の分掌
- ・採用方法と人事考査
- ・職員の資質向上
- ・産業界との連携による教育活動の体制整備
 - ・各職員の能力を見極め、人事異動等によるバランスのとれた組織運営を望む。

4 学習成果

●学生の状況・就職率・推移・資格取得率・推移

- ・専門学校の優位性を示すためにも、就職率を高めることは大変重要だ。

- ・ここ3年就職率は上昇しているが就職に対する意識が低い学生が増えていることも否めない。個々の学生にさまざまな機会を提供し、キメ細かな指導の強化を図ることで、就職率上昇に繋がるよう取り組む。
- ・経験者採用のみの企業に対して、いかにすれば新卒者の採用を受け入れてもらえるかを検討し、企業への働きかけが必要である。

●中途退学者の状況

- ・退学者を減らしていくことを最重要課題と捉え、複合化する要因の分析、効果的な対策を講じる必要がある。
- ・カリキュラムの問題、クラス内の在籍人数の問題、学習意欲の問題など様々な要因が考えられるが、それらを分析、結果や解決策を明確化し、情報を共有することで、教職員一丸となった取り組みが必要である。
- ・今回の自己点検では中途退学を減らすために今まで実施してきた対策及び、その成果が明記されていない。

●卒業生の状況

- ・ファッション業界の第一線で活躍する卒業生が多数いることは評価できる。今後もより一層卒業生たちに協力を仰いでいけるよう、繋がりを大切にすべきである。

5 学生支援

●進路・就職対策

- ・進路指導の方針及びその状況
- ・求人の開拓
- ・ハローワーク等公的支援機関との連携
 - ・キャリア教育は就職に直接結びついたカリキュラムである。導入後どのように変化しているのか、就職にどのようにつながったのか、目標設定はどうだったのかが今回の自己点検では検討されていない。
 - ・キャリア教育導入後の学生の就職に対する意識の変化、行動の変化、就職率の変化を今以上に分析し、検討、対策をとる必要がある。
 - ・専門学校としての教育の目的を考えると、教職員に対してもより一層のキャリア教育への意識づけが必要である。

●各課程の進路・就職対策

- ・進路、就職支援について、学校全体での取り組みは前提であるが、それぞれの課程にお

けるその専門分野に見合った支援の工夫が行われている点は評価できる。

- ・就職活動と日々の生活の両立が望まれるが、授業と課題のほかにアルバイトが加わる学生が多数いる。
- ・キャリア支援室スタッフのさらなる充実が必要。

●学生相談体制・経済支援・健康管理・奨学金・学生寮・健康診断

- ・カウンセラーの配置、教職員が連携を取って対応している点は評価できる。
- ・学生寮は学生の要望（寮費、通学時間など）を必ずしも満たしているとはいいきれないが、努力している点は評価できる。
- ・留学生にとっては学校に近い寮が望ましい。
- ・奨学金は学校独自の奨学金のほか公的な奨学金制度の利用ができる。
- ・健康診断は毎年4月に全学生に対し行われている。

●課外活動

- ・学友会
- ・コンテスト活動
 - ・コンテストは自分を客観視することにもつながる。積極的に活動を行うべきである。
 - ・コンテスト一覧の復活は望ましい。

●退学者への対策

- ・クラス担任制によって、教員の学生に対するこまやかな指導、相談等を行っている。
- ・にもかかわらず退学率がさほど下がらない現状があるため、今一步踏み込んだ対応、具体的な対策が必要。
- ・特に1年次への対策が重要である。

●各課程の退学者への対策

- ・各課程における対策とその実施がなければ、退学者の減少にはつながらない。
- ・志願者に対し、課程それぞれの専門分野について、より一層詳しい説明が必要。

●8 卒業生・社会人への支援対策

- ・再教育・相談
 - ・オープンカレッジ講座は大変充実している。
 - ・図書館、キャリア支援室の利用も可能となっている。
 - ・卒業生のスキルアップ、再教育への展開を今以上に高めていくとなお良い。

6 教育環境

●施設・設備

- ・教室の整備・使用状況
- ・講義室の整備・利用状況
- ・実習室の整備・利用状況
- ・教員研究室の整備・使用状況
- ・事務室の整備・利用状況
- ・健康管理センター医務室
- ・文化・服装形態機能研究所
- ・教育関連施設
 - ・施設、設備については教育・研究目的を達成するためにほぼ適切である。
 - ・整備、維持、運営がなされている。
 - ・教育関連施設についても、積極的に社会、企業などに開放して、企業との共同事業へと展開していくとなおよい。

●機材・備品の管理状況

- ・教育・研究目的を達成するために適切に整備、維持、運営されている。

●学外実習・インターン等の環境

- ・学外実習の方針及びその状況
- ・インターンシップの方針及びその状況
- ・海外研修の方針及びその状況
 - ・コミュニケーション能力を養う学外実習や感性、発想力、教養を高める研修旅行は非常に有効的で高く評価できる。
 - ・インターンシップは実施している学科、コースにばらつきがあるため、より整備検討していく必要がある。

●各課程の学外実習・インターン等の環境

- ・専門学校の特徴として、実学及び産業との結びつきがあげられるが、本学院の学外実習はそれぞれの課程の特性を伸ばした内容となっている。
- ・課程の特徴を生かしたコラボレーション活動も積極的に取り組んでいて、高く評価できる。
- ・インターンシップについては、学生のために研修先を確保する教職員の努力がうかがえた。

●危険管理と危機管理

- ・ 学生の問題行動
- ・ 実習授業中等の事故
- ・ 防災対策
 - ・ 学生の問題行動について、クラス担任が窓口となることもよいが、そのクラス担任のため「規程」や「ガイドライン」等のマニュアルを作成すべきである。
 - ・ 防災対策については自衛消防組織等を定め、防犯、防災対策に積極的に取り組んでいる。

7 学生募集

●学生募集広報

- ・ 活動の時期
- ・ 活動方法並びに状況
- ・ 効果と実績
 - ・ 入学者の学校選択行動とその時期を今以上に分析すべきである。いつの学校説明会に参加したか。いつ本学院に関心を持ったかなどを分析し、効果的な広報活動につなげる必要がある。
 - ・ 本学院に入学して本当に良かったと思える環境づくりを全教職員の共通認識で取り組む必要がある。
 - ・ 学生の満足度を図るためのアンケートの実施を行う必要があるのではないか。

8 財務・法令等の厳守

●財務状況・監査・財務状況の情報公開 ・ 令遵守の状況・適切な学校評価の取組

- ・ 財務状況が公開されている点が評価できる。
- ・ 法令を順守し、適正な学校経営がなされている。

10 社会貢献・地域貢献

●社会貢献等の取組・活動への支援状況・公開講座・教育訓練等

- ・ オープンカレッジ講座等を通じ、学びの場を広く提供している。
- ・ 学校としては公共性の観点から地域貢献活動にもより積極的に取り組むべきである。

11 国際交流

●留学生の受け入れ・国際交流の状況

- ・ 合作校の状況
- ・ 提携校の状況
 - ・ 世界各国からの留学生を受け入れている点が評価できる。文化の異なる外国人と共に学ぶことは日本人学生にとっても有意義である。
 - ・ 合作校については 10 年間の実績があることは評価できる。